2018 年 3 月 10 日　中國新聞

出雲で輝く 大和の技術

6世紀の金銀装「飾馬」6・7月に企画展

上塩冶築山古墳の出土品 国重文へ

出雲市の上塩冶築山古墳の出土品140点が9日、国の重要文化財に指定される見通しとなった。馬具類、冠など金属製品の種類が多い上に保存状態も良く、6世紀後半の制作技術や生産体制を考える上で学術的価値が高い。所有する市は、6～7月に市内の出雲弥生の森博物館で指定記念の企画展を開き、意義を伝える＝31面関連。（岡田浩平）

出土品で特徴的なのが馬具類。市文化財課によると、2セットあるうち、金銀装の一式は、くつわ、くらに加え、馬の胸や尻を飾る金具がそろい、古墳時代の「飾馬」の実態を復元し得る貴重な資料。金銅製の冠も形や技法が特殊で極めて珍しい。いずれも最先端の技術があった大和地方（奈良県）で作られたとみられる。

同古墳は出雲平野南部にある。古墳時代後期の円墳で直径約46㍍。全長14・6㍍の横穴式石室があり、同時期では山陰地方最大級だ。大石棺には出雲西部を治めた「大首長」、小石棺にはそれに次ぐ人物が埋葬されたと推定されている。

金銀装の馬具類は小石棺のふたの上から出土。この人物が推古天皇の頃の大和政権に出仕し、褒美などとして持ち帰った可能性がある。同課は「騎馬隊の隊長など高位のクラスだったのでは」とみる。

1887年に当時の土地所有者が石室を開けて豊富な副葬品を確認。1959年に市所蔵となった。墳丘の発掘調査や出土品の整理が進み市が国重文指定へ作業を進めていた。

同課は「出雲と大和の関係を教えてくれる貴重な資料」とPRする。出土品の一部の埴輪や須恵器は同博物館で展示されている。企画展は6月2日～7月9日。

県内では松江市玉湯町にある民間の保性館幽泉亭も国登録有形文化財になることになった。1931年築の木造平屋入母屋造り。内部を数寄屋風にまとめている。

上塩冶築山古墳から出土した金と銀の馬具（出雲市提供）

2018 年 3 月 10 日　山陰中央新報

上塩冶築山古墳 出土品重文に

出雲 金銀装飾馬具など140点

国審議会答申

山陰随一の規模を誇る円墳として知られる出雲市上塩冶町、上塩冶築山古墳の出土品が9日、重要文化財に指定される見通しとなった。島根県内の国宝・重要文化財の指定件数は97件となる。このうち出土品など考古資料は11件目で、2010年の出雲大社境内遺跡（出雲市大社町杵築東）の出土品以来、8年ぶりとなる。

（板垣敏郎、糸賀淳也）＝30面参照

国の文化審議会が同日、林芳正文部科学相に答申し、官報告示を経て正式に指定される。

同古墳は6世紀、古墳時代後期後半の円墳で、墳丘は直径46㍍。明治時代に発掘され、既に国史跡となっている。出雲地方の西部を支配した有力者の古墳と考えられ、中に二つの石棺がある。兄弟で埋葬されたと考えられるという。200点を超す大量の出土品は1961年、島根県の指定文化財となった。

85年からの出雲市の墳丘調査や出土品の整理研究を経て、資料価値の高い140点が今回の重要文化財指定の対象となった。金属製品の種類の多さが目を見張る点で、内訳は金銅製の冠や金銀で装飾を施した馬具や武具、水晶玉やガラス玉など。

特に馬具は金銀をあしらったくつわ、くら、あぶみだけでなく、雲珠、辻金具、杏葉など飾り金具が一式そろい、当時の飾馬の様子が具体的に分かる。保存状態も良好で馬具の皮革部分も残存。土と接しない石棺のふたの上に置かれたため、腐食を免れたという。

装飾馬具の出土は、中央の大和王権との密接なつながりを意味し、埋葬された人物が王権内で役目を果たし、見返りでもらった可能性がある。

また、文化審議会は、「創意ある数寄屋意匠に技量が発揮された秀作」として松江市玉湯町玉造の宿泊棟・保性館幽泉亭（1931年建築）を、「伝統木造の近代の展開を示す和風住宅」として鳥取市国府町岡益の林田家住宅の主屋（20年建築）と米蔵（16年建築）をそれぞれ登録有形文化財に指定するよう答申した。

保性館幽泉亭（松江）　林田家住宅（鳥取）　文化財指定

（上）上塩冶築山古墳の出土品。保存状態の良い装飾馬具などが重要文化財指定を受ける（出雲市文化財課提供）。写真（下）は松江市玉湯町玉造の保性館幽泉亭（松江市まちづくり文化財課提供）

2018年3月10日　毎日新聞

出雲の考古資料 国重文に

文化審答申 上塩冶築山古墳の出土品

上塩冶築山古墳の主な出土品＝出雲市文化財課提供
下保性館幽泉亭の東側外観＝松江市まちづくり文化財課提供

保性館幽泉亭（松江）は登録文化財

国の文化審議会は9日、出雲市の古墳で発掘された冠や太刀などの「上塩冶築山古墳出土品」を国重要文化財に指定し、松江市の温泉旅館の皇族専用棟「保性館幽泉亭」を国登録有形文化財とするよう国に答申した。上塩冶築山古墳の出土品は出雲市の「出雲弥生の森博物館」の所蔵で、6月から記念展示が開かれる予定。県内の国有形文化財のうち、考古資料の指定は「出雲大社境内遺跡出土品」以来、8年ぶり。【根岸愛実】

上塩冶築山古墳は、古墳時代後期（6世紀後半）の円墳で直径約46㍍。保存状態の良い土品140点が、種類が豊富で当時の制作技術や生産体制を考える上で学術的価値が極め冠や太刀、馬具など出て高いと評価された。

登録されれば、県内の国有形文化財数は97件、うち考古資料は11件となる。

また、保性館幽泉亭は、玉造温泉にある旅館「保性館」が1931年に皇族専用に建てた宿泊棟で、戦後間もなく、昭和天皇も宿泊された。

木造平屋（約130平方㍍）で、出雲地方で活躍した大工、川島徳次郎が建築した。宝鏡や、まが玉を彫るなど「皇族専用にふさわしい意匠で格式あるたずまいを演出している」などと評価され、県内の近代和風建築の高い文化水準を伝える歴史・文化資産とされた。

保性館によると、一般公開するかは未定だが、観光資源として活用する方向で検討しているという。指定されれば、県内の国登録有形文化財（建造物）は189件になる。

2018年3月10日　読売新聞

重文に築山古墳出土品

須恵器や埴輪140点 文化審答申

国の文化審議会は9日、古墳時代後期の「上塩冶築山古墳」（出雲市上塩冶町）から出土した金属製品や土製品など計140点を重要文化財（美術工芸品）に、松江市玉湯町の宿泊施設「保性館幽泉亭」を登録有形文化財（建造物）に指定するよう文部科学相に答申した。指定が実現すれば、県内の国宝・重要文化財の指定件数は97件、登録有形文化財（建造物）は計189件となる。（佐藤一輝）

同古墳は山陰最大規模とされる直径約46㍍の円墳。石室内には大小二つの石棺があり、大きい方は長さ2・8㍍、幅1・45㍍、高さ1・74㍍で山陰で最大規模という。

出土品の一部は1887年に土地の所有者が見つけ、1961年に県の有形文化財に指定されたもの。同審議会は、出雲市が85～2007年の発掘調査で発見した須恵器や円筒埴輪などと合わせた140点について、「後期古墳の副葬品として卓越した内容で、日本海沿岸地域の副葬品を知る上で価値が高い」としている。

指定されれば、考古資料の重文指定は県内で11例目で、出雲大社境内遺跡出土品以来、8年ぶりとなる。

出土品のうち、冠は銅板に金のメッキが施され、剣に似た形の飾りなどが特徴。金や銀で装飾された馬具は2セットあり、一式がほぼ欠けることなく見つかるのは全国的に珍しいという。いずれも大和で作られていたとされ、当時の大和との関係性が強かったと推定される。

出雲市文化財課の坂本豊治主任は「古墳全体が高く評価されたと捉えており、うれしく思う。指定を契機に、出雲の重要な遺跡として県内外にアピールしたい」と話していた。市は6月2日～7月9日「出雲弥生の森博物館」で出土品の指定記念展を予定している。

一方、保性館幽泉亭は皇族専用の宿泊棟として1931年に建てられた。国重要文化財「木幡家住宅」（松江市宍道町）の「飛雲閣」を建てた大工、川島徳次郎（1871～1955年）が手がけ、屋根の下に二重のひさしを持ち、室内では竹などを使った装飾が見られるなど、格式ある数寄屋風の造りが評価された。

上塩冶築山古墳の出土品の一部＝出雲市提供

登録文化財に保性館幽泉亭

保性館幽泉亭（松江市玉湯町）＝松江市提供